

# 葛飾の魅力を 全国へ



映画監督  
やまだ ようじ  
**山田 洋次**

葛飾区長  
あおき かつのり  
**青木 克徳**

## 新春対談

日本中を笑いと涙で包み、国民的人気を誇った映画シリーズ『男はつらいよ』。「寅さん」と「葛飾柴又」の名を全国的に有名にし、区の観光資源を発展させました。昨年末の第50作公開を記念して、監督の山田洋次氏をお迎えしました。

### 『男はつらいよ』 50作目の公開を迎え

**区長** 今から50年前に第1作をクランクインしたのですが、その時は50年後に、第50作を上映するなんて夢にも思っていないませんでした。そもそも1作で終わる予定でしたから。それがヒットして続編を作った。それからさらに作り続け、49作で打ち止めになりましたが、それから22年経ってまた新しい作品を作るなんて不思議な気持ちです。

**区長** 50年前の私はもう葛飾区の職員でした。『男はつらいよ』の1作目を見させていただいて、当時まだ有名な場所では無かった葛飾の魅力が発信できる作品だなと感じたことが今でも記憶に残っています。50作目も早速拝見しました。この次も出ないのかな、なんて思っていますよ。

### 作り手の想いは 画面から伝わる

**区長** 僕の仕事は映画を作ることだから、それが楽しくなくてはいいけない。苦しみながら作った映画では観客も楽しんでくれませんか。作り手が楽しんでくれば、最高の物を作ったなど満足できる作品を作ることを大切にしています。

### プロフィール

#### 山田 洋次(やまだ ようじ)

昭和6年9月13日生まれ。日本を代表する映画監督・脚本家。昭和29年、助監督として松竹株式会社に入社。映画『男はつらいよ』は、昭和44年に第1作が公開され、現在までに50作が公開される人気シリーズとなった。他にも多くの作品を手がけ映画の発展に尽くしたことから、平成24年、文化勲章を受章。葛飾区名誉区民。

ちで区政に取り組んでいます。監督のお話を聞いて、そういった姿勢をこれからも大切にしていこうと思えました。

**区長** 区役所に行くとその雰囲気です。区政のあり方が伝わりますね。葛飾区役所は温かくて和やかです。

**区長** 区民の方が来庁したときに安心して相談できたり、手続きができたような雰囲気作りというのは大事にしています。

**区長** そういえば、寅さんが葛飾区役所に行くシーンがあります。「あなたの声を聞かせてください」と書かれたアンケート箱に向かって、寅さんが「あ〜」って自分の声を聞かせるんだよね(笑)。

### 柴又は私の故郷

**区長** 山田監督の映画を見ていると、終わったときに人と人のつながりの大切さに改めて気付かされ、映画を見て良かったなという心も温かくなります。

**区長** 映画は僕を中心にして、大勢の俳優やスタッフなどによって作られます。その全員が「良い映画を作ろう」という気持ちを持つことを大切にしないでならない。そういう気持ちは画面から観客に伝わるといことを信じています。

**区長** 区も職員一人一人が「区民の暮らしを良くしよう」という気持ちを持っていくので、同じ施策を行っても成果が違ってきます。私も常に区民とともに考えながら良いものをつくっていくという気持ち

**区長** 1本の寅さん映画を作った時に、ロケハンをしたり、何べんもロケに来たりで、何回も柴又に足を運びます。それを50回も繰り返したので、相当な回数、柴又にきています。ですから僕にとって葛飾の柴又は故郷と同じです。シリーズが回を重ねるに従って、柴又の商店が改築を始めて、軒の低い昔風なお店が多かったところがビルになったりして、それにはハラハラしていました。観光客は昔ながらの雰囲気が残っているから来るのであって、それが消えると柴又の魅力が無くなってしまふと意見を言ったりもしました。地元の方たちも分かってくれたのでしようね。区長や職員の人たちの努力もあって、今の帝釈天参道の雰囲気が保たれているのだと思います。

### 『男はつらいよ』 について



『男はつらいよ』は、主人公・寅さんが旅先から故郷の柴又に戻ってきては、家族や恋したマドンナを巻き込み、騒ぎを起こす人情喜劇。日本各地で撮影される美しい風景や、毎回登場する豪華なマドンナ・ゲスト陣も見どころ。

※4面に続く

年頭に当たって

葛飾区長

青木克徳

明けましておめでとうございます。昨年は、台風に伴う強風や浸水による被害が各地で発生しました。本区も避難所開設や情報伝達など、多くの課題を残しました。この経験を今後に残し、区民の皆様と力を合わせて、安全で安心な街をつくるために全力を挙げて取り組んでまいります。

さて、本年は東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が開催されます。東京2020オリンピック聖火リレーも決まりました(中面参照)。区民の皆様と開催都市の一員として大いに盛り上がるための取り組みも今後行ってまいります。

この新年号では、名誉区民である山田洋次監督と対談をさせていただきました。『男はつらいよ』お帰り寅さん』をはじめ、葛飾柴又についての思いを語っていただきました。ぜひ山田監督の言葉とともに、映画もご覧いただけたらと思います。

新しい年も、私は、災害対策をはじめ、高齢化に対応した取り組みや子育て支援、行動につながる健康への取り組み、公共交通の充実など様々な課題に積極的に取り組んでいきます。そして一人でも多くの方に「住んで良かった」と思ってもらえるような街をめざしてまいります。結びに、皆様にとりまして、この新しい年がよい年でありますよう心から祈念いたしました。私からの年頭のごあいさつとさせていただきます。